

## 中国及びウクライナがパキスタン戦車市場を狙う

漢和防務評論 20160203 (抄訳)

阿部信行

(記者コメント)

パキスタンの次期主力戦車の選定にあたり、入札が行われているようです。現在、中国及びウクライナが入札に参加しているようです。中国はすでに MBT2000 型戦車をパキスタンに輸出した実績があり、有利なようです。ウクライナ製の戦車は、タイ国に輸出した実績がありますが、タイ国の雨期には戦車の電池がすぐダメになるようで、問題となっているようです。

KDR カラチ特電：

キエフ及びイスラマバードの陸軍消息筋は次のように述べた：パキスタン陸軍は、次世代主力戦車の入札者の募集を開始した。中国北方工業公司 (NORINCO) は、MBT300/VT4 で、ウクライナは OPLOT MBT で入札することになる、と。中国の VT4 は、パキスタン西部の砂漠でテストが計画されている。中国の戦車設計者は：VT4 は、實際上中国陸軍 99A MBT の輸出型で、エンジンと照準装置は同じものが使用されている。VT4 は、全ての面で西側の第 3 世代主力戦車の水準に達している。例えば、全自動式電動砲塔で、回転時、音が極めて静かである。操縦士、車長及び砲長には第 2 世代赤外線映像機器が準備され、ユーザーオプションでフランスの第 3 世代赤外線映像機器に換装することができる、と述べた。

消息筋によると、パキスタンへの入札のため VT4 は一連の改良を行っている。現用の 1300 馬力の電子制御水冷式ディーゼルエンジンは、最大出力が 1500 馬力になるよう調整できる。しかしパキスタン西部は、灼熱の砂漠であり、もし 1500 馬力に調整すると、大型の放熱機が必要になる。したがって 1300 馬力で十分である。また VT4 は、初めて GL5 型レーザー誘導砲弾を採用した。口径は 125 MM、レーザー誘導で、射程 5000 M、発射速度は毎分 3 発、重量 19 KG、長さ 69 CM である。貫徹力は、RHA 240 MM/68 度 WITH ERA (反応式装甲付加) である。200 乃至 5000 M 以内の殺傷確率は 90% である。弾頭は、APFSDS (離脱装弾筒付翼安定式徹甲弾) を採用している。

消息筋は、この種ミサイルはすでに 99A に装備していると述べた。VT4 の重量は 52 トンに達する。

ウクライナは、パキスタンに OPLOT MBT を積極的に売り込んでいる。この戦車は、最初にタイ国に 48 両の輸出契約が締結された。現在すでに 10 両交付されたのみで、現在停滞している。タイ国陸軍の消息筋は、KDR に対し：OPLOT 戦車は、タイ国の雨期になると電池の寿命が縮小し常に交換しなければならない、と述べた。

しかしタイ国の消息筋は：ウクライナの輸出企業のサービスには満足している、と述べた。これに対し、ウクライナの戦車専門家は KDR に対し：タイ国の季節によって、OPLOT 戦車の電池は直ぐにダメになる。これが故障の主な原因である。しかし交換作業は迅速に行っている、と述べた。

KDR は、ウクライナの戦車の電池は、LUGANSK で生産されているのを知っている。ここはウクライナ紛争で被害を受けた。

政治的理由によって、パキスタンが VT4 を採用する可能性の方が高い。地域の軍事消息筋はこのように述べた。またパキスタンは、中国のエンジンを換装した MBT2000/AL-KHARID 型主力戦車の使用を検討している。この戦車は、ウクライナの 6TD2 型ディーゼルエンジンを使用している。

中国とパキスタンは、MBT2000 型戦車の共同生産方式を真似た VT4 の生産技術移転について協議中である。しかし困難な面もある。その理由は、MBT2000 戦車の約 60%の部品はパキスタンがすでに取得している T-59Ⅱ型戦車等の部品と共通であるため、MBT2000 は生産コストを安くできたが、VT4 は全く新しい戦車であるため、技術コストが相当高くなるからだ。

KDR 記者がエジプト及びイスラエルで第 4 次中東戦争の戦車戦の教訓を考察した際、分かったことは：ロシア製戦車の火砲の負角が小さく、T-54/55 シリーズの戦車の負角が通常－5 度程度であるという。しかし西側戦車の負角は－8 乃至－10 度までに達するという。VT4 戦車の負角は分からないが、MBT2000 を改良することによって火砲の負角は－6 度に達している。96A/VT2 型主力戦車の火砲の負角は－5.4 度に達している。

以上